

アジアリンク代表

小野 朋江さん 40

たま  
tamabito

# 留学生の就活支えたい

「留学生に求められている積極性を短い時間でアピールするためにも、もっと大きな声で話したほうがいいよ」。日本での就職を目指し、面接に訪れた中国人留学生の女性に、優しい口調でアドバイスをする。

アジアの留学生と企業を引き合わせる人材紹介会社「アジアリンク」を自宅近くの小平市内

に開き、1月から業務を始めた。

中国や台湾、韓国など首都圏を中心に約130人の留学生が登録しており、面接で希望職種などを詳しく聞きながら、就職先を探す。「留学生の思いや悩みも共有し、人生と一緒に考えられる。責任も大きい分、やりがいも大きい」

2001年から約1年間、夫

◆ 青梅市生まれ、日野市育ち。家庭では13歳の長男を筆頭に2歳の四男までの4兄弟の母親。「家がにぎやかなので、仕事が大変でも気分をリセットできる」と笑う。地域で孤立しがちな外国人の母親と料理やヨガなどで交流し、ママ友を作る「多文化共生ネットワークたま」の代表も務める。

の仕事の都合でフィンランドに住んだ。言葉が理解できずに初めは苦労したが、ヘルシンキ大で言葉を習い、3か月ほどで日常生活ができるようになった。と、生活が一転、楽しくなった。

外国人に言葉を教える仕事に興味を覚え、帰国後に通信教育で学び、「日本語教育能力検定試験」に合格。04年から約6年間、日本語教師として、語学学校や専門学校でアジアからの留学生に日本語を教えた。

日本で就職を希望する留学生は多いが、その希望がかなうのはごくわずか。帰国したり、望みをつなぐため大学院に進学したりする場合がほとんどで、卒業後の進路まで深く関われない立場に無力感を感じた。「留学生は名前を知っている大手ばかりを見てしまうが、それは選ぶ力がないだけ。中小も含めて、魅力ある企業との橋渡しをした」と起業を決めた。

現在、紹介先の企業はメーカーなど約30社。商品展示会を回り、海外展開している企業を探しては担当者との名刺交換を

するなどして、関係を築いてきた。

最終面接に進んだ留学生はいらるが、また採用者は出ていない。収益的にも体力的にも決して楽ではないが、「ここ1、2年は厳しくても、ビジネスとして必ず成功させたい」と意気込む。

起業に備えて「コミュニティービジネスの起業講座を受講した。当時、講師を務めたNPO法人「Mystyle@こだい」の竹内千寿恵代表は「目的がぶれることなく、プロ意識や行動力もある。収益面などの課題があっても、彼女なら乗り越える」と期待を寄せる。

日本にいる外国人留学生は約14万人。そのうち9割超はアジアからだ。漫画やファッションといった文化に憧れたり、旅行で訪れた際の接客の素晴らしさに感動したりして、日本に留学するケースが多いという。

「留学生は日本に期待して遠くから来たのだから、働く夢をかなえてあげたい」。価値観や文化は異なっても、交流によって、アジアがより近づくことを願っている。

(岡本裕輔)